

中学校卒業まで 医療費無料の実現を

こども署名



署名にご協力ください

取り扱い団体

日本共産党
福島県議会議員団

「こども署名＝中学校卒業まで医療費無料の実現」を 全県で大きく広げましょう

少子化が進む中、子育てのための支援はすべての県民の願いです。

しかし、子どもをめぐる政府の対策は、まだまだ進んでいません。中でも、医療費の負担は子育ての大きな不安となっています。全国の県、市町村でなんらかの無料制度、補助制度が実施されていますが、政府は国の責任で実施することを拒否しつづけています。

未来は子どもたちのものです。子どもたちが健やかに成長し育つために、子どもの医療費を義務教育が終了するまで無料にすることは、国が行うべき最優先の仕事ではないでしょうか。

私たちは、新しくなった福島県知事が子育て支援に力を入れると表明していることを重視しています。私たちは、県知事が県民を代表して、国に対してその実現を強く求めること。そして、福島県が自ら率先して、子どもの医療費を現在の小学校入学前までの無料から、中学校卒業まで無料にするために、大きく足を踏み出すことを求めます。

県民のみなさん

子どもたちの医療費無料化は、県内のいくつかの市町で住民要求に応じて年齢引き上げの努力が始まっています。大熊町は一昨年4月から小学3年まで入院・外来とも無料、双葉町は今年4月から小学6年まで入院・外来とも無料、二本松市は来年4月から小学6年まで入院が無料、広野町は来年4月から小学校6年まで入院・外来とも無料を検討するなど、市町独自に、子どもの医療費無料の年齢を引き上げる努力が始まっています。

しかし、福島県内のすべての子どもたちが、どの市町村に住んでも、無料で医療を受けられるようにするには、広域自治体としての県が責任を果たし実施する以外にありません。

あなたの願いをみんなの願いに広げ、「子育てするなら福島県」と、全国に誇ることのできる福島県にしようではありませんか。

すべての県民のみなさんへ「こども署名」のご協力をお願いします。

2006年12月

日本共産党福島県議会議員団

こどもの医療費を中学校卒業まで無料化に することを求める署名（こども署名）

いま私たちは、こどもの笑顔に励まされながら、仕事や子育てに懸命にとりこんでいます。子育ての大きな不安に「こどもの病気」があります。

こどもは病気にかかりやすく、重症化することもあり、早期発見・早期治療が何よりも大切です。少子化対策・子育て支援にとっても医療費の無料化が大きな力となります。

全国的には、中学校卒業まで医療費が無料の自治体が多くなってきています。県内でも小学校入学前まで無料となっていますが、さらに市町では小学校3年生、6年生に補助を広げる自治体も生まれています。

県内のすべての子どもたちの医療費を等しく無料にするには、広域自治体としての県の役割が決定的です。「子育てするなら福島県」と、全国に誇ることのできる福島県になることを強く願っています。

国が責任を果たすと同時に、県として県民の願いを実現するための取り組みが求められています。

よって、下記事項の実現を強く求めます。

【要求事項】

- 1、国に対し、「こどもの医療費無料制度」の創設を強く求めること。
- 2、福島県内すべてのこどもの医療費を、中学校卒業まで完全無料化すること。

おなまえ	おところ

取扱団体〔 〕

中学校卒業まで医療費を無料に

2002年から福島県では、小学校入学前までの乳幼児医療費の無料化を、すべての市町村とも協力して行っています。

これにかかっている県の費用は、14億円です。

中学校卒業までの医療費を無料にするための、県からのお金は、最大36億円と計算されています。

あと22億円プラスするだけで実現できるのです。



県内の自治体では独自の上乗せをして子育て支援を行っています

大熊町・一昨年4月から小学3年まで入院（食費含む）・外来とも無料。償還払い。

双葉町・今年4月から小学6年まで入院・外来無料。入院食費は負担。

二本松市・来年4月から小学6年まで入院（食費含む）が無料に。償還払い。

広野町・来年4月から小学6年まで入院（食費含む）・外来無料、窓口も完全無料化を検討。

福島県が市町村と協力すれば、全県すべての自治体で中学校卒業までの医療費無料化の実現は十分に可能です。

